

**実践報告**

コロナ禍における実習代替えとしての模擬実習  
-基礎看護学実習での取り組み-

奥平寛奈, 高瀬寛子, 柿谷絵理, 草刈由美子, 豊嶋三枝子

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

抄 録

【目的】 COVID-19 の感染拡大により臨地実習を断念し、在宅での模擬実習を基礎看護学実習代替えとした。その実践と評価について報告する。

【実践内容】 模擬患者は実習目的と本来の実習病院の患者層を考慮し日常生活援助を必要とする高齢者と設定した。A 大学が導入している manaba を活用し、教材の配信等を行った。学生は毎日更新される患者情報を紙面や動画、模擬電子カルテから収集し、看護過程の展開を行った。実習指導は Zoom を用いたオンラインで行い、看護計画実践のみ登校して実施した。学生には実習終了後に実習目標に対する自己評価のアンケートに回答を求めた。

【結果・考察】 66 名 (76.4%) から回答を得た。実習目標は概ね達成できており患者の看護についても理解できたが、臨地実習のイメージをつけることは難しく模擬実習の限界であった。

模擬実習ではグループディスカッションや個別指導が容易にできる環境等により、知識面の強化ができていた。

キーワード: 実習代替え, 模擬実習, 基礎看護学, シミュレーション, コロナ禍

I. 背景

2019 年末から現在にかけて世界中で流行している COVID-19 は医療・経済・

教育に大きな影響を与えている。A 大学では 2020 年度前期の科目を全てオンラインとし、学生の大学への入構を制限した。この為、看護学科 2 年生は基礎看護学実習に欠かせないバイタルサイン測定演習や日常生活援助の技術練習が全くできない状況であり、臨地実習に対する学生の不安は強かった。一方、実習受け入れ先である病院も新型コロナウイルス感染患者対応の為、病棟の一部制限、実習受け入れ中止等の対応となり、当初予定していた病院での臨地実習は不透明な状況となった。

この状況は 2020 年 7 月に入っても続いた。中本ら<sup>1)</sup>は、基礎看護学実習と成人看護学実習を経験した学生への実習困難感を調査した研究において、両実習ともに最も困難感が高かったのは「看護援助の実践」であったと述べている。同様に、A 大学看護学科 2 年生も学内演習ができないことに対して著者に直接進言してくる者も複数名おり、学生自身の看護技術への不安は特に強かった。これらの現状から、科目責任者としても学生が必要な準備をする機会を逸したまま初めての臨地実習を行うことは、効果的な教育活動であるのか疑問に感じた。

2020 年 6 月 1 日「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種などの各学校、養成所および養成施設などの対応について」が文部科学省と厚生労働省から出された<sup>2)</sup>。この事務連絡では、授業だけでなく実習もオンラインやシミュレーターを活用して代替えするなどの工夫が記述されていた。これを受け、著者が科目責任者である看護学科 2 年生必修科目「基盤看護実習Ⅱ」は A 大学が導入している LMS (learning management system : 学習管理システム) の manaba<sup>3)</sup> を活用したオンラインでの模擬実習で代替えすることとした。

## Ⅱ. 目的

基礎看護学実習に代わる模擬実習の実践と評価を行い、今後の教授法への示唆を得ることである。

### Ⅲ. 用語の操作的定義

#### 1. 基礎看護学実習

患者をはじめて受け持ち看護過程の展開を行う2年次臨地実習。学生は受け持ち患者の看護計画を立案し、立案した看護計画を受け持ち患者に実践することが実習目的である。

#### 2. 模擬実習

実習目的、実習目標に応じた架空の患者を設計し、その患者に整合する看護記録、検査データなどを電子カルテに見立てたパソコンに準備する等、臨地実習を行っている状況を模して展開する実習。

表1 実習スケジュール

実習日	学習内容・課題
	全体オリエンテーション 担当教員紹介 実習方法の説明/学習方法の説明
1日目	病棟オリエンテーション(動画) 受け持ち患者紹介(動画) グループオリエンテーション 14時～リフレクション
	出席確認/本日の実習内容の確認
2日目	指導者さんと一緒にケアさせていただきながら(動画) 患者情報収集する。 得た情報は「日常生活情報用紙」に記述する。 14時～リフレクション
	出席確認/本日の実習内容の確認
3日目	指導者さんと一緒にケアさせていただきながら(動画) 患者情報収集する。 得た情報は「日常生活情報用紙」に記述する。 14時～リフレクション
	出席確認/本日実習内容の確認
4日目	14時～「日常生活情報用紙」をもとに患者の様子と気づきについてグループディスカッションを行う。 自分の気づきやディスカッションでの他者の意見を踏まえ基本的ニーズに関するアセスメントをして、看護問題の明確化を行う。「アセスメント用紙」に記述する 出席確認/本日の実習内容の確認
5日目	カンファレンスが11:00～ある。動画7でカンファレンスを見学する。(※11:00～13:00閲覧可能) 14時～リフレクション
	出席確認/本日の実習内容の確認
6日目	個別指導。その間、抽出した看護問題から優先順位を考え「看護問題リスト」を記述する。また、立案する看護問題を1つ決めて「看護問題リスト用紙」を記述する。 15:30～リフレクション
	実習9日目を行う計画実践に向けた準備。自分で決めた立案する看護問題について看護計画を立て「看護計画用紙」に記述する。
7日目	立案した看護計画の中から実践する看護ケアに対して「計画手順書」を作成する。
8日目	ナーシングチャンネル、教科書の動画などを各自で閲覧し実践する技術練習の代わりとする。
9日目	看護計画の実践・評価
10日目	まとめ・記録提出

### Ⅳ. 実践内容

#### 1. 模擬実習の進め方

##### 1) 実習方法とスケジュール

学生を1グループ8～10名に分け教員を1名配置した。教材の配信はA大学が導入しているmanaba<sup>3)</sup>を使用し、指導にはオンライン会議ツールのZoom<sup>4)</sup>を活用した。

実習期間は従来の実習期間と同じ10日間とした。

実習1日目は担当教員の紹介、実習方法の説明、実習の注意点等についてオリエンテーションを行った。実習中は臨地実習と同じユニフォーム着用とし、毎朝身だしなみの確認から実習開始とした。

このことは、はじめをつけて臨地実習に近い緊張感を持ってもらいたいという

願いからである。

実習 6 日目まで患者情報を更新し、実習 7, 8 日目は看護計画の立案を行った。実習 9 日目に学内の演習室で模擬患者に立案した看護計画の一部を実践し、評価した。実習 10 日目にこれまでの学習をまとめ記録を整え提出とした。実際の実習スケジュールを表 1 に示した。

## 2) 実習目的と目標

実習目的は『健康課題を有し入院療養中の看護の対象に対し、基本的ニーズに基づく情報収集、情報のアセスメント、ニーズの充足状態の評価、看護目標の設定、看護計画の立案、看護実践および評価の一連の看護過程の展開を学修する。』とし、これは臨地実習から変更しなかった。

実習目標は『①入院療養中の看護の対象者と良好な関係を築くためのコミュニケーションを考え記述・実践ができる。②グループメンバーと協調的な関係を築きながらディスカッションをし、学びの共有ができる。③学習を通して必要事項を教員に報告、連絡、相談することができる。④ヘンダーソンの「看護を構成する 14 の基本的欲求」をもとに健康課題を有する対象者の基本的ニーズを記述することができる。⑤健康課題を有し入院療養中の対象者のニーズを理解し、プライバシーへの配慮および根拠を考えた看護を計画することができる。⑥対象者の個人情報やプライバシーへ配慮した記述をすることができる。⑦看護計画および実践においては、安全で安楽な環境と支援を立案し、実践することができる。』とし、一部を「対象者に実践できる」から「対象者のニーズを考えて記述できる」や「計画できる」という思考に重点を置いた目標に変更した。

## 3) 教材の準備

模擬患者は、学生が実際に臨地実習で受け持つことの多い年代で、日常生活援助が必要な患者になるように、「88 歳女性 恥骨骨折の診断で入院し、保存的療法を行いリハビリして退院」という設定にし、教材を作成した。

教材は、Excel を用いて模擬電子カルテを作成し、その中に体温表、医師カルテや看護カルテを準備した。また、患者の入院中の生活がわかる動画（図 1）、



図 1 清潔ケアの一場面



図 2 多職種カンファレンスの一場面

表 2 作成した動画教材一覧

学習（閲覧）日	動画内容
実習1日目	動画1 病棟オリエンテーション（11分）
	動画2 受け持ち患者さんへの挨拶（4分）
実習2日目	動画3 実習指導者さんへの挨拶と実習目標の発表と物品の確認とバイタルサイン測定（12分）
	動画4 清潔ケア（全身清拭・部分介助）と使用物品の片付け・ごみの分別（20分）
実習3日目	動画5 排泄ケア（車いす移乗しトイレに移送）（15分）
	動画6 昼食の配膳と食事場面の観察（7分）
実習5日目	動画7 多職種リハビリカンファレンスの様子（3分）

多職種カンファレンス動画（図 2）を準備した（表 2）。

各場面の詳細な設定を示したシナリオを準備し、そのシナリオを基に臨床指導者役、学生役、患者役をそれぞれ教員が演じた。シナリオ内容に関しては、著者が作成後に複数名の教員で内容を確認し実習目標を達成するために適切であることを確認し教材内容の妥当性を担保した。動画は学生の目線で撮影してしまうと視野が狭い映像になってしまい教材としては不適切であると考え、臨床指導者、学生、患者が映る映像とし、学生が臨床指導者の指導を受けながら

援助をしている様子として撮影した。また、学生役が完璧な援助を展開してしまうと学習している学生ができない自分に不安になってしまうであろうと推測した。一方、間違った援助場面や危険な場面にしてしまった場合は学習している学生がそのことに気が付かなかった場合の危険性も憂慮した。これらのことを熟考し、教材作成の基準を、少したどたどしいが臨床指導者と共に患者の安全を守り看護援助を展開している、ということにした。

## 2. 実習の実際

実習は表1に示したスケジュールに沿って進め、毎日リフレクションの機会を設けることで学習進捗の確認および、学びの共有を行った。またZoomのホワイトボード機能を用いて学生の意見を記述していき、リアルタイムに共有することで話し合いをしやすくした(図3)。

実習9日目には立案した看護計画の一部を学内の演習室で実践し、その様子を学生同士でiPadを用いて撮影し、学生は撮影した動画を確認しながら自分の援助の振り返りと評価を行った(図4)。

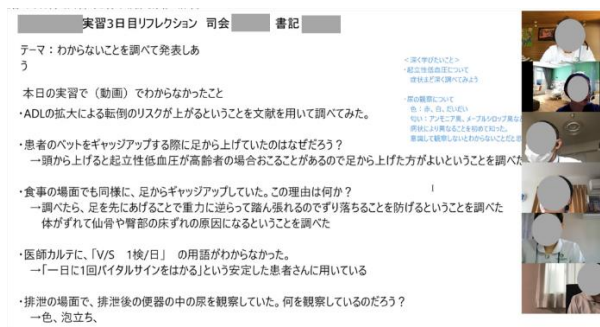


図3 リフレクションの様子



図4 学内での看護計画実践の様子

## V. 評価と倫理的配慮

A 大学看護学科 2 年生基盤看護学実習 II 履修生 89 名を対象に、実習終了後にアンケートの回答を依頼した。アンケートは Web を用いて実施し、内容は著者らが自作した実習目標達成に対する自己評価と自由記述で構成した。実習目標達成に対する自己評価の回答は、「1. 全くあてはまらない 2. わずかに当てはまる 3. 半分くらいあてはまる 4. かなりあてはまる 5. とてもあてはまる」の 5 段階のリッカート尺度で求めた。調査期間は 2020 年 9 月 11 日～9 月 30 日とした。

分析は、記述統計および自由記載に関しては記述された文章を精読し、意味の分かる文節で区切り、同様の内容でまとめた。これらについて、3 名の教員で行うことで精度向上に努めた。

研究協力者へは実習終了後に Web アンケートへの回答を求めた。アンケートの回答をもって研究参加に同意したこととみなす旨を説明し、研究参加に同意した学生のみ回答するように説明した。さらに Web アンケートの回答フォーム冒頭にも同様の内容を明記した。アンケートは無記名であり個人を特定することはできないこと、回答の有無および内容は科目の成績評価には一切関係ないことを説明した。

## VI. 結果

66 名 (76.4%) から回答を得て、すべてを分析対象とした。

### 1. 実習目標に対する自己評価

Shapiro-Wilk 検定を実施し、正規分布をとらないデータであることを確認したため、本結果は中央値を用いて記述した。

実習目標に対する自己評価は 12 項目あり、「2. グループメンバーと協調的な関係を築きながら、ディスカッションを行えた」、「3. 必要なことを担当教員に報告、連絡、相談することができた」、「12. 教員から適切な指導が受けられた」は中央値 5 (第 1 四分位 4, 第 3 四分位 5) であった。「4. ヘンダーソンの〈看護を構成する 14 の基本的欲求〉をもとに健康課題を有する対象者の基本的ニ

ーズを記述することができた」、「5. 患者のニーズを理解し、根拠を考えた看護を計画することができた」、「7. 患者にとって安全で安楽な環境を考え看護計画を立案することができた」、「8. 患者にとって安全で安楽な環境を考え立案した看護計画を実践することができた」は4(4, 5)であった。「1. 患者と良好な関係を築くためのコミュニケーションを考えることができた」、「6. 患者の個人情報やプライバシーへ配慮した記述をすることができた」、「9. 学習を通して患者のイメージが持てた」は4(3, 5)であった。「11. 日常生活援助を必要とする患者の看護について理解できた」は4(3, 4)であり、「10. 学修を通して患者のイメージが持てた」は3(2, 4)となった(図5)。

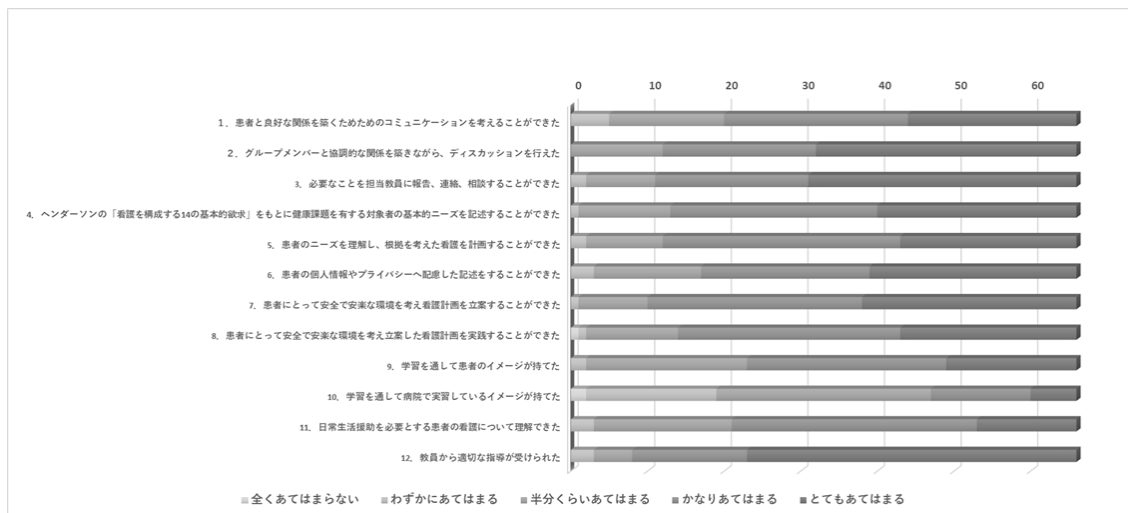


図5 実習目標に対する自己評価

## 2. 学生の感想・意見

斜字は実際の記述原文である。

### 1) 良かった点

自由記述から、ディスカッションの機会が多く、ディスカッションを通して深く考えることを学んでいた。また、看護過程に対する理解の深まりや知識面の強化ができていたことが窺える結果であった。

「自分が動画の場面にいたらどう対応するかを考えながら情報収集ができた。



さらに、毎日のリフレクションでは、自分一人では気が付かなかった点についても共有して理解を深めることができた」、「自分の観察から得た情報でアセスメントを考え計画を立てたので、患者さんの状態について詳しく調べられ看護の知識も身につけることができた」、「普段よりディスカッションする機会も多く、みんな平等に発言できて意外に良かった」。

## 2) 課題点

自由記述から、限られた情報の中で看護過程の展開をせねばならず困難に感じていた様子が窺えた。また、実際の臨地実習での自分自身の看護技術やコミュニケーション技術に不安を感じているという結果となった。

「実際の患者を想像して看護過程を展開できたが、患者とどのようにコミュニケーションをとるかというところまでの想像は難しい」、「配信されていることからしか情報収集が出来ず、歯がゆい思いをした」、「実際の実習では深く学べないことがよく考えられた。しかし逆に実習でしか味わえない緊張感や技術に不安が残る」。

## 3) その他

模擬患者であっても日々向き合うことで患者に親しみを感じ、実際の実習している自分を想像して考えられる面もあったことが窺える結果であった。

「実際に目の前に患者さんがいるわけではなかったけれど、イメージしてアセスメントや計画をしていくうちにイメージがついてきて元気に退院して欲しいななどと思っていた」、「実践に対しては不安が残るが、先生方の実際を想定した動画などのおかげで自分がもし実際にケアをするようになったらということを想像しやすくなった」、「自分が動画の場面にいたらどう対応するかを考えながら情報収集ができた」。

## VII. 考察

### 1. 実習の展開と学生の評価

実習目標は達成されたと学生自身が評価しており、意欲的に学習に取り組んでいた。実習前は科目の進行や教材に対する不安、実習自体に対する不安があ

ったものの、学習を進めるうちに取り組める自信をつけ、最終的には満足感の高い実習となっていた。これらの理由としては、学生 10 名程度に 1 名の担当教員を配置し少人数のきめ細やかな指導体制をとったことで、これまでよりも看護過程に対する指導が受けられ理解に至ったことが考えられる。吉田らが行った研究<sup>5)</sup>において学生はオンデマンド型の授業のメリットとして、「いつでも・どこでも・繰り返し・自分のペースで受講できる」という点を挙げていた。今回の模擬実習でも実習時間に合わせて教材の閲覧ができるようにしたため、学生は時間内であれば繰り返し教材を確認することができた。これにより患者の様子を注意深く観察することができ、それが深いディスカッションへとつながっていったと推測した。

また、実習中は毎日リフレクションを行った。この目的は学びの共有だけでなく、自宅でオンラインという学習環境によって学生が孤独に陥りやすいこと、ピアサポートを受けにくい現状であることに配慮したものでもあった。岡田が行った調査<sup>6)</sup>によると、学生が感じるオンライン授業のデメリットの一つとして「対面と比べて隣にいる友達にちらっとわからないことを聴くことができないこと」を含めた「人との交流が少ない」が明らかとなっており、著者らの配慮は適切であったと考えている。

模擬実習にあたり患者の日常生活の様子を中心に動画教材を作成した。これは、入院中の患者をイメージしやすくするためであった。結果から動画教材に対する学生の評価は高く、患者イメージを持つことにつながっていた。初学者にとって臨床場面を想像することは難しく、実際に視覚教材を活用することは有用であったと示唆された。

一方、病院で実習をしているというイメージを持つまでには至らずこれは模擬実習の限界であった。また、学生自身も実際の臨地実習における看護技術やコミュニケーション技術に不安を抱いている様に、実践力の強化に対しては課題が残った。文部科学省は看護実践能力育成における臨地実習の意義として「看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、学内で学んだ知識・技術・態度

の統合を図りつつ、看護方法を習得する。」「言い換えると、看護の方法について、〈知る〉〈わかる〉段階から〈使う〉〈実践できる〉段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程である。」<sup>7)</sup>と述べている様に、学生の不安に関連することは臨地実習でしか学べないことであり、改めて看護教育における臨地実習の重要性を認識した。

## 2. 今後の活用

今回の結果から、模擬実習は患者イメージが持つ看護過程の学習として学生が理解しやすい教授法であったことが示唆された。しかし、実際に実習をしているイメージを持つことは難しいということも明らかとなった。これらから、臨地実習の代替えとしては課題が残るものの、実習前の準備教育として活用できる可能性が示唆された。近年、反転授業の取り組みが多く大学の大学で行われており<sup>8)</sup>、様々なメリットが明らかとなってきた<sup>9)</sup>。臨地実習前に作成教材で学習することで臨地実習のイメージを持ちながら看護過程の復習を行うことで、臨地実習へのスムーズな適応が期待できる。

## VIII. 結論

模擬実習ではグループディスカッションや個別指導が容易にできる環境等により、知識面の強化ができていた。一方、臨地実習のイメージをつけることは難しく、学生は看護技術やコミュニケーション技術に不安を抱いていることも明らかとなった。

限られた情報という制限はあったものの、動画教材や模擬電子カルテ等を取り入れたことは学生の学習に対する興味・関心を促進でき、満足度が高い実習となった。

本研究にご協力いただきました皆様に深謝申し上げます。

本論文は第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術大会(2021年

3月)で発表し優秀演題賞を受賞した内容に加筆してまとめたものである。

## 文献

- 1) 中本明世,伊藤朗子,山本純子他(2015):臨地実習における学生の困難感の特徴と実習状況による困難感の比較ー基礎看護学実習と成人看護学実習の比較を通してー,千里金蘭大学紀要,12,123-134.
- 2) 厚生労働省:新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設などの対応について.事務連絡令和2年6月1日.  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000636112.pdf> (2020年6月13日閲覧)
- 3) 株式会社朝日ネット:クラウド型教育支援サービス「manaba」  
<https://manaba.jp/products/> (2021年7月4日閲覧)
- 4) Zoom Video Communications, Inc. (Zoom ビデオコミュニケーションズ):  
<https://explore.zoom.us/jp-jp/about.html> (2021年7月5日閲覧)
- 5) 吉田由似,上田一紀(2021):オンライン(オンデマンド型)授業の実践とその課題に関する一考察:初年次教育、及び情報教育におけるスタディ・スキル科目を題材に,関西大学高等教育研究,12,71-85.
- 6) 岡田佳子(2021):学生からみたオンライン授業のメリットとデメリットーオンライン環境下のアクティブラーニングに焦点を当ててー,長崎大学教育開発推進機構紀要,11,25-41.
- 7) 文部科学省:臨地実習の在り方1)看護実践能力育成における臨地実習の意義,  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.html)  
(2021年7月6日検索)
- 8) 重田勝介(2013):反転授業 ICTによる教育改革の進展,情報管理,56(10),677-684.
- 9) 小川勤(2015):反転授業の有効性と課題に関する研究ー大学における反転授業の可能性と課題ー,大学教育,12,1-9.